

# Chemical Bonds 支部／教育・普及部門だより

## 北海道支部発

### 2023年北海道地区化学教育研究協議会

本年度の北海道地区化学教育協議会（第65回）は、2023年11月11日（土）に北海道教育大学札幌サテライトとZoomによるハイブリッドにて開催され、54名に参加していただきました。

研究会は、北海道地区化学教育研究協議会会長の村田一平校長（北海道羽幌高等学校）の開会宣言に続いて、特別講演1件、日本化学会北海道支部長朝倉清高先生（北海道大学）の挨拶、小中高校教諭3件と大学教員1件の講演、自由討論が行われました。最後に日本分析化学会北海道支部副支部長の坂入正敏（北海道大学）の挨拶で閉会しました。開会宣言後、2023年9月にご逝去された西村昇先生（北海道札幌東高等学校）の北海道の化学教育と研究協議会への長年の多大な貢献に感謝とご冥福を祈り黙祷が捧げられました。

阿部竜先生（京都大学）の特別講演「人工光合成～その基本と研究の歴史そして実用化に向けた最新動向～」では、基礎から最新の研究まで平易に説明していただきました。

化学（理科）教育の小中高大学における実践について、菊田康平先生（北海道教育大学附属旭川小学校）、瀬田悠平先生（札幌市立八軒東中学校）、酒井一明先生（北海道



札幌南高等学校）および蠣崎悌司先生（北海道教育大学札幌校）から、それぞれ「自らかかわり、科学的に追究し、知識を紡ぐ子どもの育成～小学校5年生「もののとけ方」の学習を通して～」、「知識の再構築を通して、自然との共生に向かう環境教育～知識を実生活に活用する学習を通して～」、「化学変化の際のエンタルピー変化とエントロピー変化を理解する～その反応は自発的に進むか？判断出来ることを目指して～」および「大学初等課程の化学実験実習の改善—答え合わせのできる実験実習—」に関する提言がありました。自由討論では、特別講演と各提言に対してさらなる意見交換が行われました。

協議会後の懇親会でも活発に意見交換が行われ、コロナ禍が終わったことを実感できる一日でした。

（坂入正敏 北海道大学大学院工学研究院 准教授）

## 東海支部発

## 令和5年度東海地区化学教育討論会

2023年10月14日(土)、三重大学工学部17番教室にて、日本化学会東海支部ならびに同支部化学教育協議会の主催、東海5県(愛知県、岐阜県、静岡県、長野県、三重県)各教育委員会と三重大の後援で開催されました。この討論会は、東海5県の中・高、高専、大学の教員や化学教育に関心のある大学生等が参加する会です。今年度は、遠方からも参加しやすくするためオンライン(Zoom)も用いたハイブリッド形式で行い50名弱が参加しました。

前林正弘委員長(名城大学教授)の挨拶の後、東海地区の高校・高専教員の各取組に関する6題の研究発表〔「旭丘高校SSH化学の取り組み」梅村賢(愛知県立旭丘高校教諭)、「大規模言語モデルを活用した化学教育について」森屋亮平(岐阜県立中津川工業高校教諭)、「上野高校における化学分野の探究活動」奥村浩光(三重県立上野高校教



配付物の写真

諭)、「科学的に探求する力を育てるために〜『金属イオン分離実験』から〜」市原一模(長野県諏訪清陵高校教諭)、「高校化学教育におけるプロジェクト授業」大川翔平(静岡県立沼津商業高校教諭)、「エンタルピーに関する中等教育と高等教育との連続性」高倉克人(鈴鹿工業高専教授)がありました。続いて、大場正春(名城大名誉教授)による特別講演「高校化学における化学熱力学の導入〜反応熱から反応エンタルピーへ〜」が行われました。

今回の討論会では、大場先生の特別講演に引き続き20分間の「総合討論」を設けました。これは、高校新課程でエンタルピー変化が取り扱われるようになったことに関連し、企画段階で協議会委員の高校の先生と委員長のディスカッションから出た提案でした。高倉先生による中等教育と高等教育の接続を意識した化学熱力学教育実施の紹介、大場先生による化学熱力学導入に関する考察を踏まえての討論でしたので、教員の所属に関わらず、活発な議論が交わされました。

(湊元幹太 三重大学大学院工学研究科 教授)



会場の写真